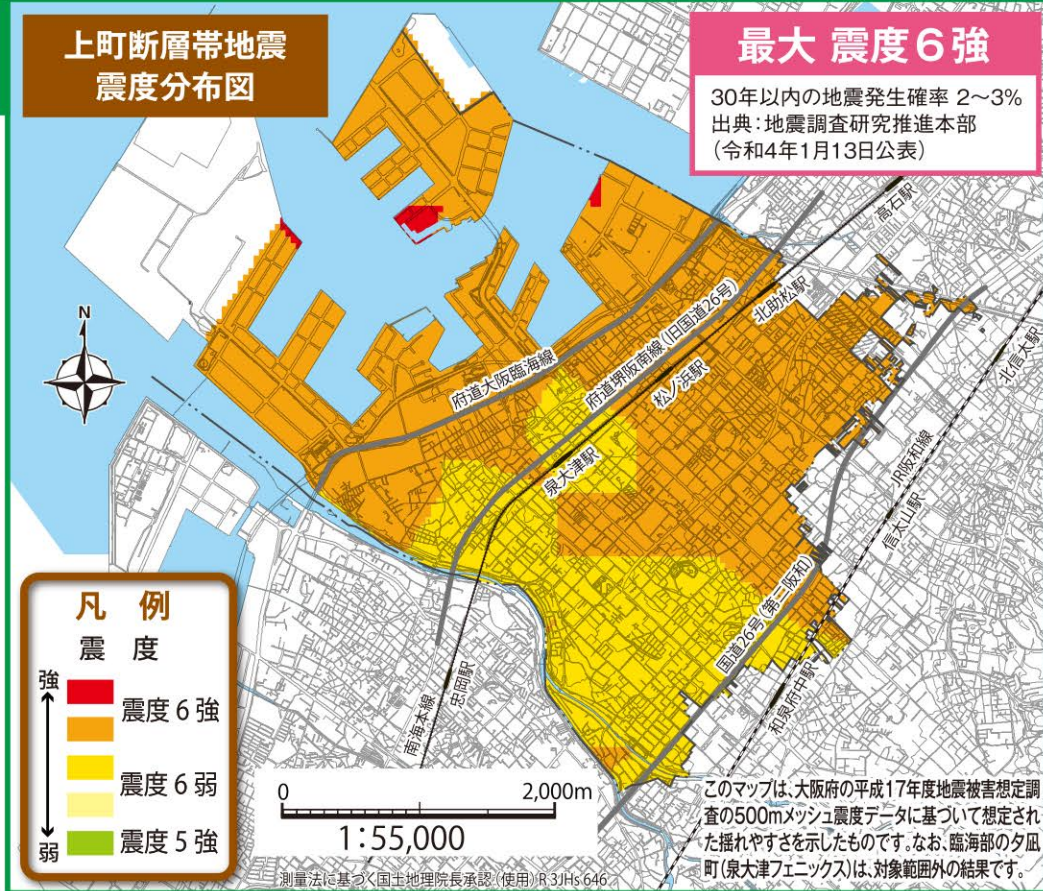


1-1 地震の震度はどうなる？

地震は、『内陸型地震』と『海溝型地震』の2種類に分けられます。泉大津市では、どちらの地震も発生する可能性があります。それぞれの地震の特徴と震度を確認しましょう。

内陸型地震 活断層が原因で起きる地震

- 特徴**
- ガタガタと短時間強く揺れる(阪神・淡路大震災のような揺れ)
- 泉大津市に大きな影響を及ぼす地震
上町断層帯地震、中央構造線断層帯地震等



海溝型地震 海底のプレートが跳ね上がって起きる地震

- 特徴**
- ゆっくり、大きく、長時間揺れる
 - 数十年から数百年という短期間で、繰り返し発生
 - まれにとてつもなく大きな規模で発生
 - 津波が発生
- 泉大津市に大きな影響を及ぼす地震
南海トラフで発生する地震等



震度と想定被害(震度階級表) 出典:気象庁・震度と揺れ等状況(概要)より

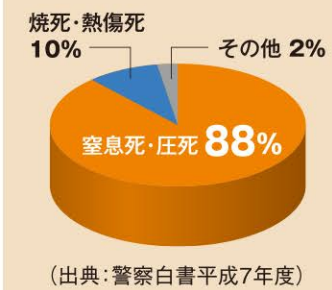
<p>震度6弱</p> <p>人は、立っている事が困難になります。耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがあります。</p>	<p>震度6強</p> <p>人は、はわないと動くことができません。耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなります。</p>	<p>震度7</p> <p>耐震性が低い木造住宅は、傾くものや倒れるものがさらに多くなり、耐震性の高い木造住宅でも、まれに傾くことがあります。また耐震性の低い鉄筋コンクリート建物は、倒れるものが多くなります。</p>
---	---	---

1-2 地震の倒壊危険度はどうなる？

倒壊危険度とは、地震による揺れにより全壊する建物の割合を表すものです。市の補助事業等も活用しながら、地震の揺れに備えましょう。

耐震化の重要性

阪神・淡路大震災では、直接被害者の約9割の方の死因が、建物や家具の倒壊による窒息死・圧死でした。中でも昭和56年以前に建てられた古い建物は、倒壊するおそれが高いことが分かっています。



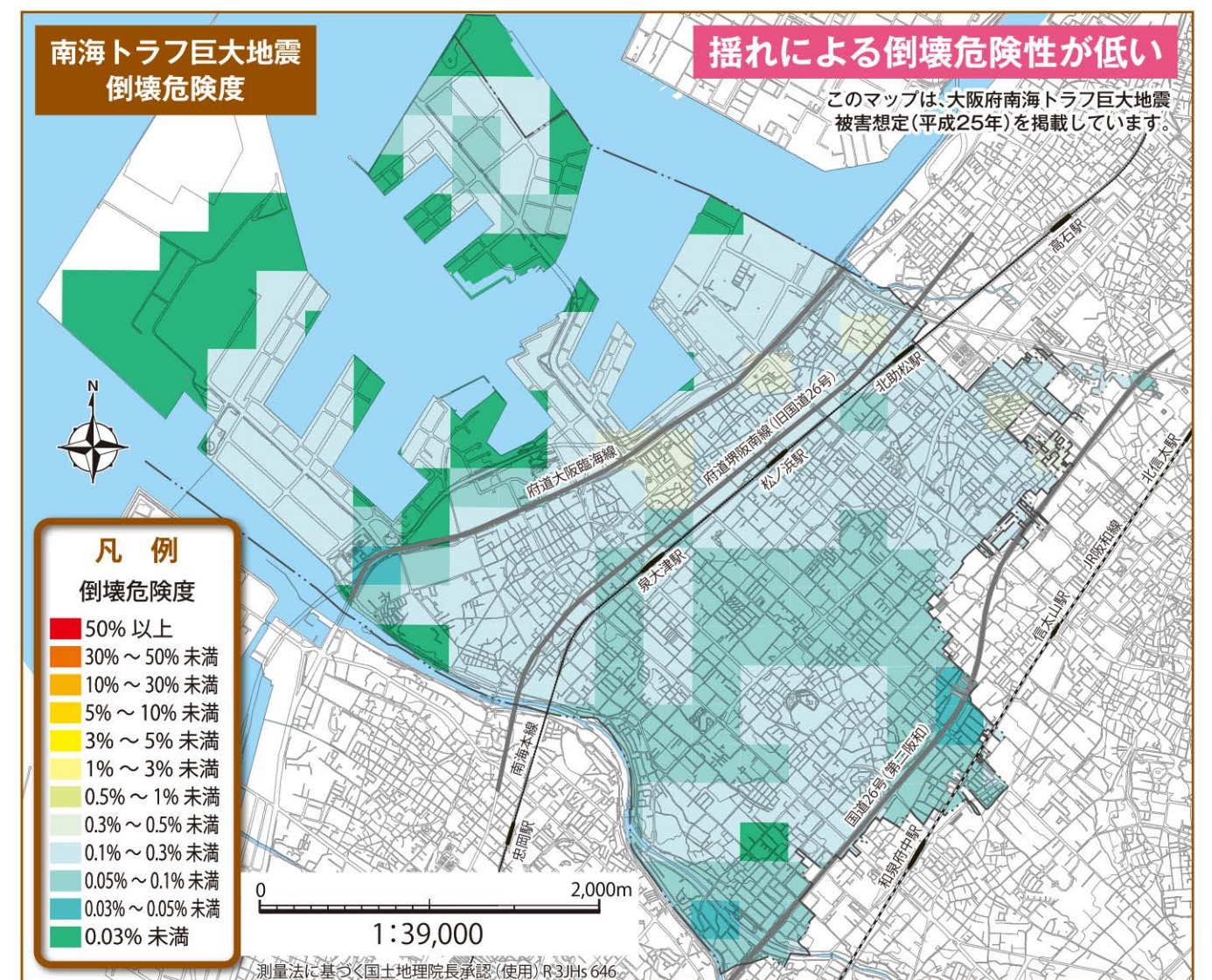
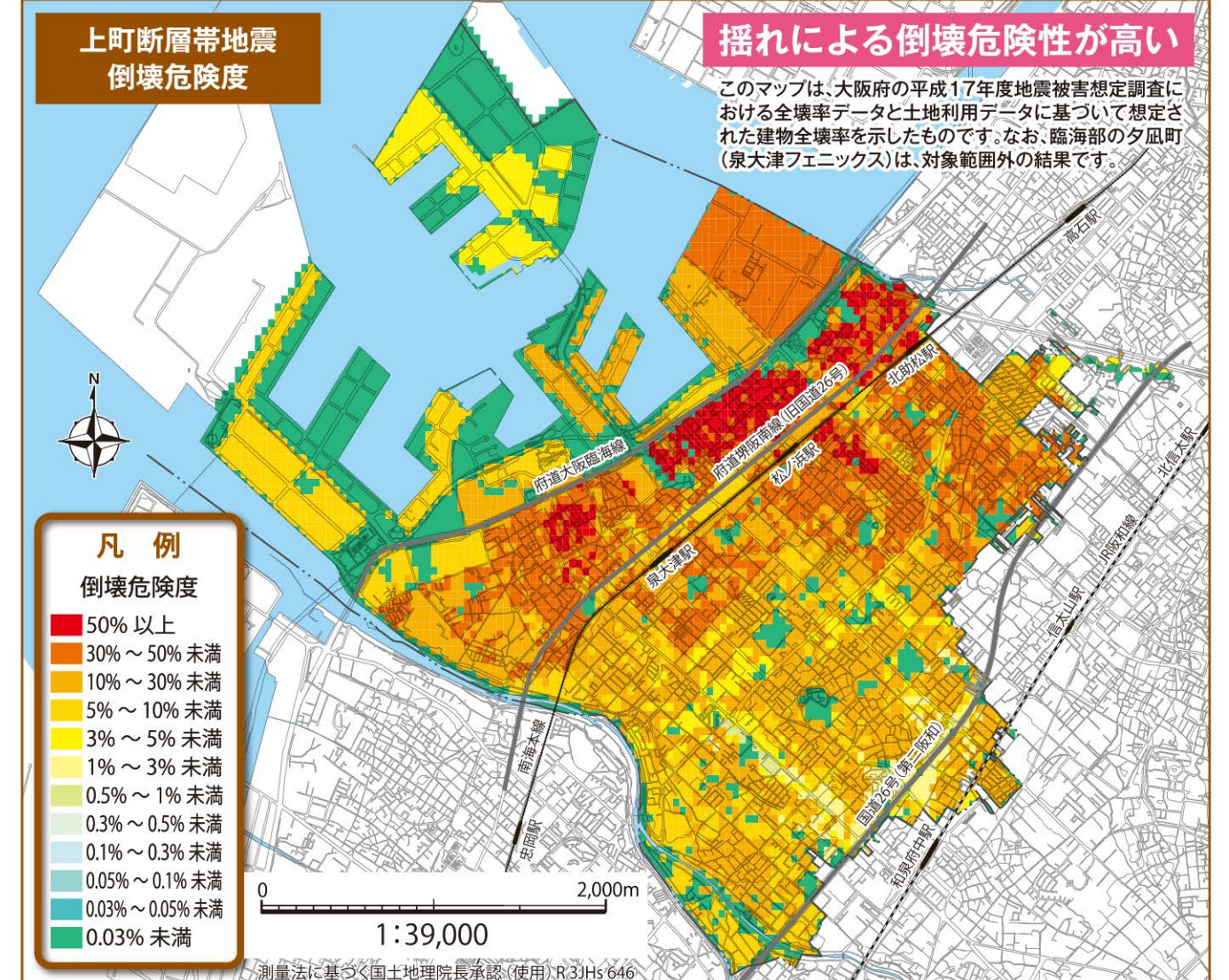
補助事業を活用しよう

泉大津市では、地震に備え既存木造住宅の耐震診断と耐震設計、耐震改修に係る費用の一部を補助しています。補助には対象となる要件などがあります。詳しくは、建築住宅課までお問い合わせください。

まずは耐震診断

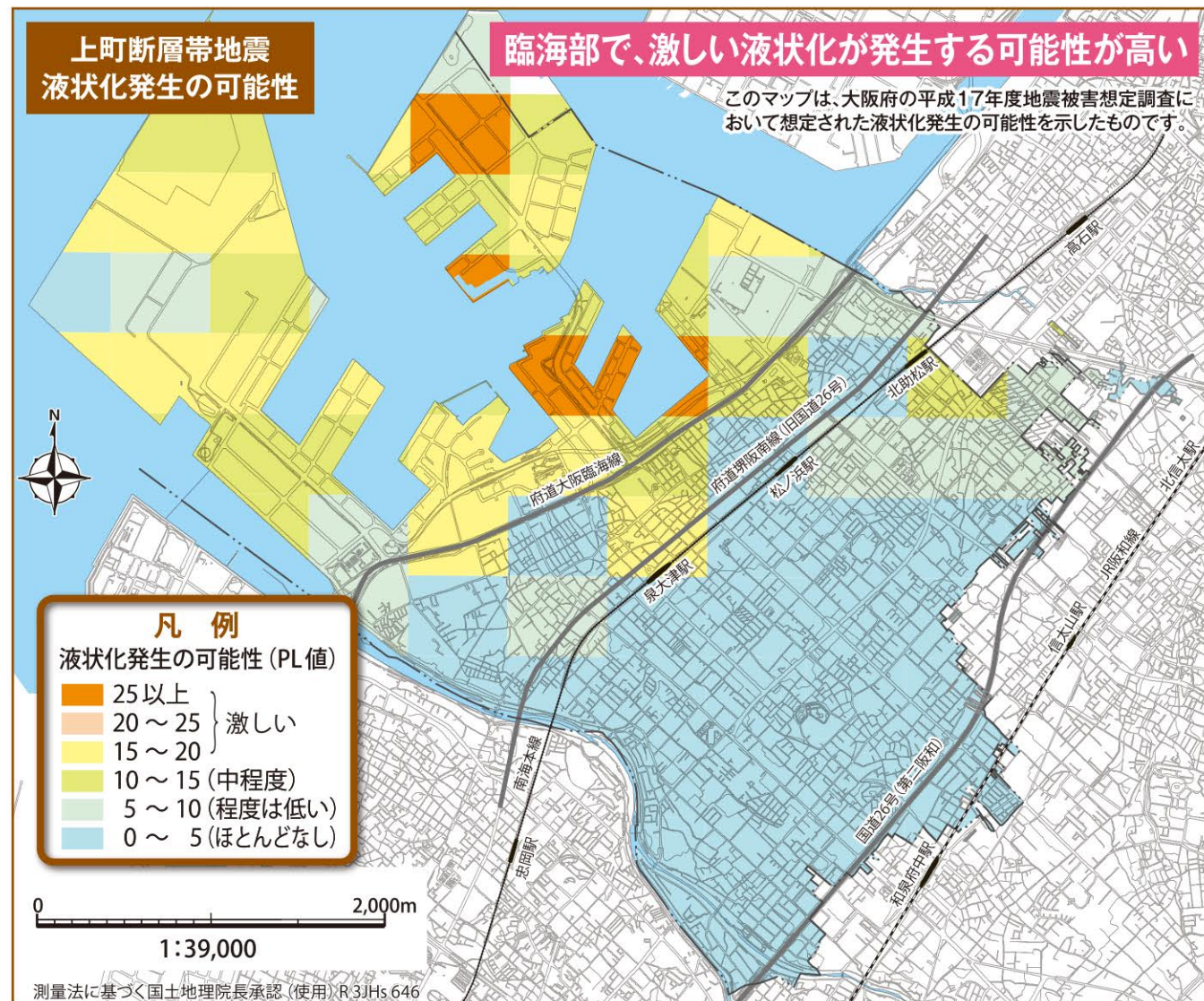
しっかり!耐震設計

あんしん!耐震補強



1-3 液状化発生の可能性はどうか？

このマップは、地震による揺れにより液状化発生の可能性があるかを示した地図です。



PL値とは

PL値とは、液状化発生の可能性を表す指標です。PL値が大きいくほど液状化発生の可能性が高く、液状化の程度も大きくなります。

液状化発生のメカニズム

液状化とは、地下水位が高く、ゆるく堆積した砂地盤などが地震により激しく揺れると、土の粒子が水と混じり合って、一時的に地面が液体のようになることをいいます。海岸や河川沿いに広がる低地部で液状化の可能性が大きくなると予想されます。



出典：財団法人消防科学総合センター
東日本大震災 液状化により浮き上がったマンホール被害の様子

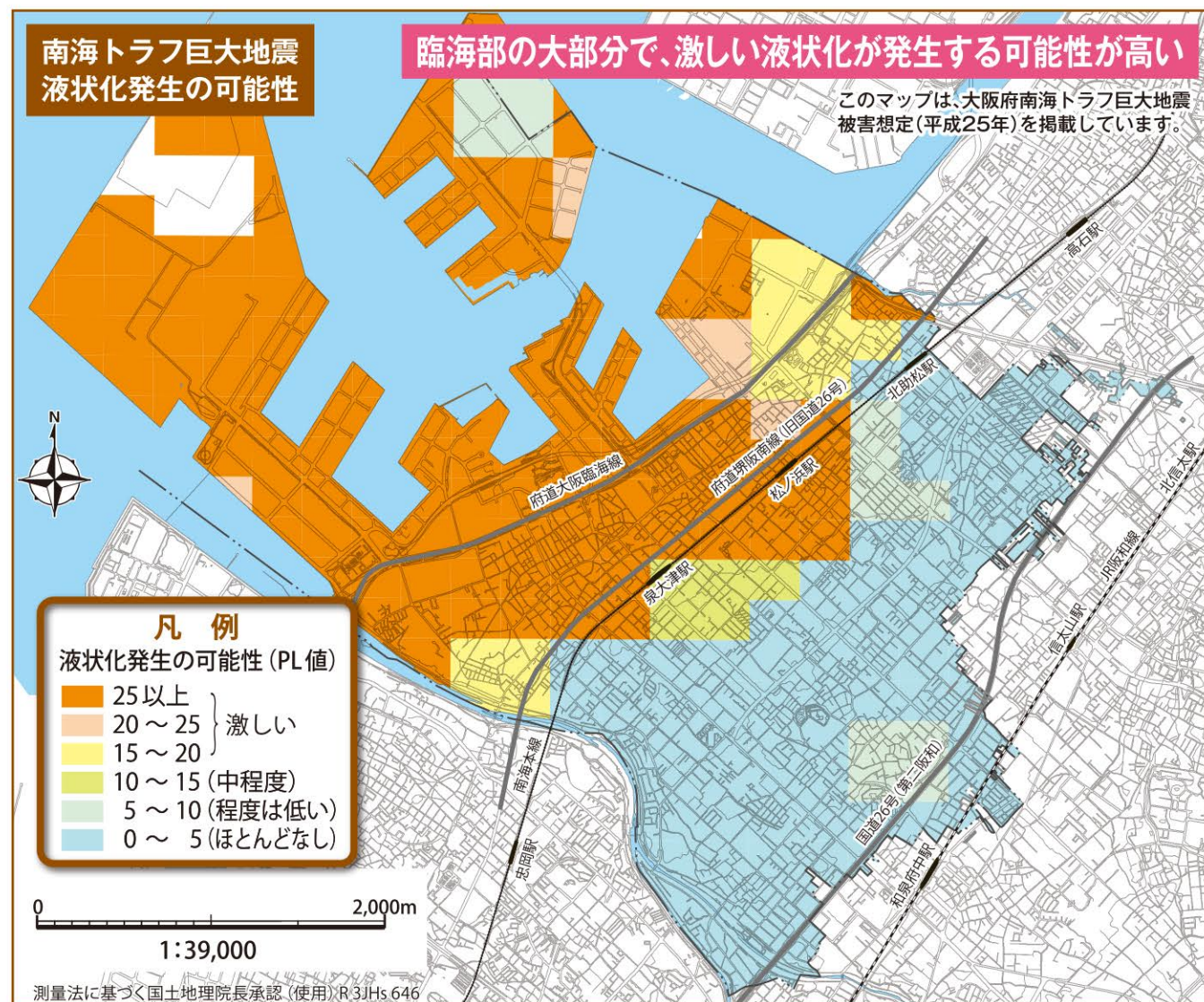
地震前



地震時



地震後



2-1 津波避難の基本方針

南海トラフでの地震発生後、泉大津市に約95分で最大4.4mの津波が到達することが想定されています。身の安全を確保して、強く長い揺れを感じたらすぐに津波の情報を確認し、南海本線より東の避難目標地点へ避難しましょう。



津波避難時の心得



地域での協力が大切!



避難は徒歩で!



海岸や川には近づかない!



独自の判断で戻らない!

避難が困難な場合は～垂直避難～

警報の発表を知るのが遅れたときや避難が困難なときなど、十分な時間が確保できない場合は、近くの津波避難ビルへ避難しましょう。津波避難ビルには、入口付近に右のような看板を設置しています。

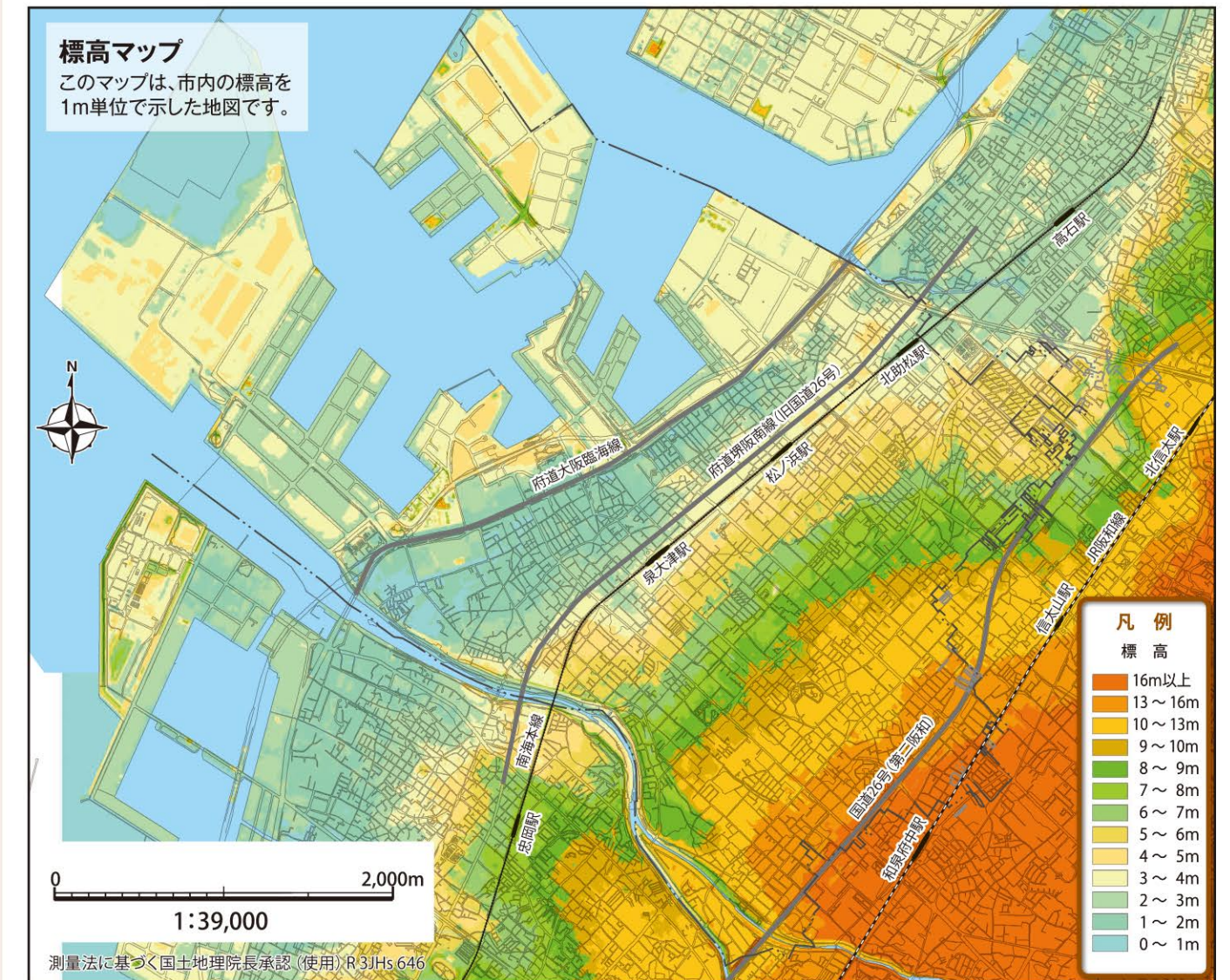
※津波避難ビルとは、津波浸水想定区域等の臨海部及び内陸部にある鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造で新耐震基準(昭和56年施行)に適している建物です。

泉大津市 津波避難ビル



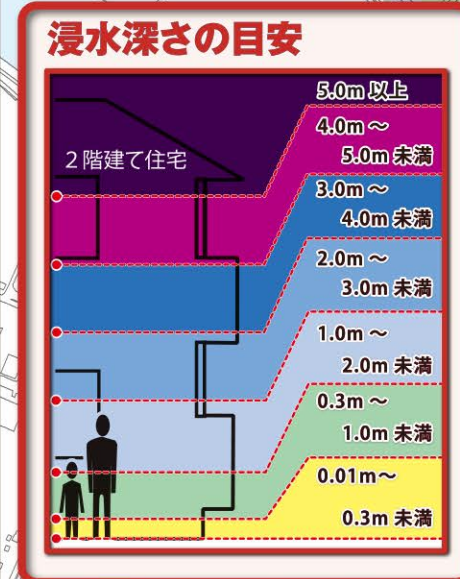
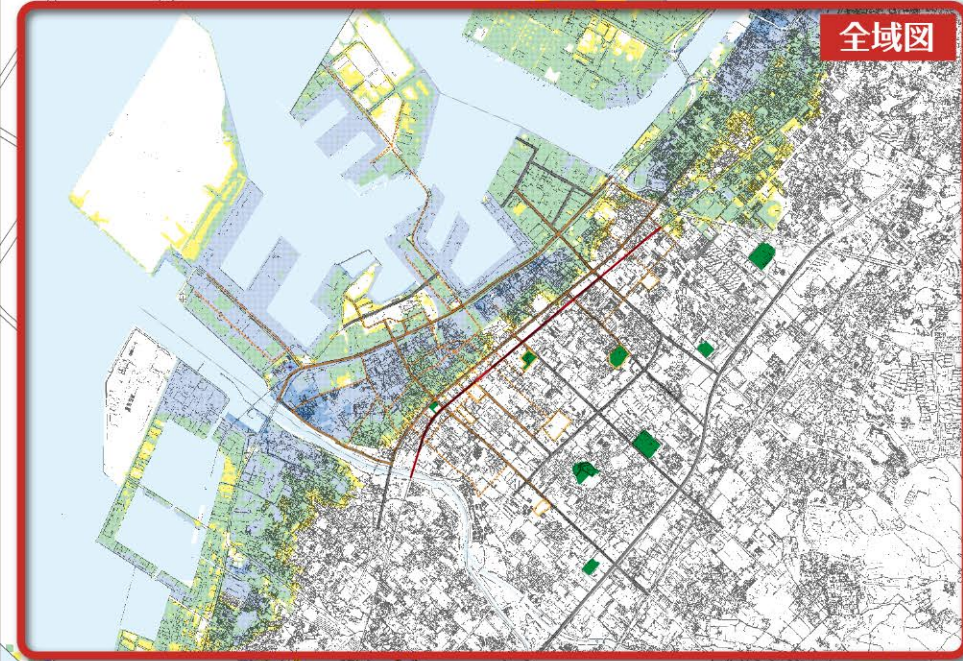
津波から身を守るために

海溝型の地震が発生した場合は、津波の危険性があります。津波から身を守るためには、より標高の高いところに避難することが重要です。標高マップで、お住まいの地域の標高を確認しましょう。



2-2 津波ハザードマップ（市街地拡大）

このマップは、平成25年8月に大阪府が公表した津波浸水想定区域を示した地図です。



凡例

- 津波避難目標
- 避難目標地点
- 一次避難地
- 津波避難ビル
- 指定避難所
- 市役所
- 警察
- 消防署
- 病院
- 避難経路
- 市指定避難路

津波浸水想定区域

浸水深さ

- 5.0m以上
- 4.0m～5.0m未満
- 3.0m～4.0m未満
- 2.0m～3.0m未満
- 1.0m～2.0m未満
- 0.3m～1.0m未満
- 0.01m～0.3m未満

※平成25年度に実施した住民ワークショップで検討した結果を掲載しています。



測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R3JHS 646

津波避難ビルの最新情報は市HPで

泉大津市 津波避難ビル



1 地震編

2 津波編

3 風水害編

4 ため池編

1 地震編

2 津波編

3 風水害編

4 ため池編